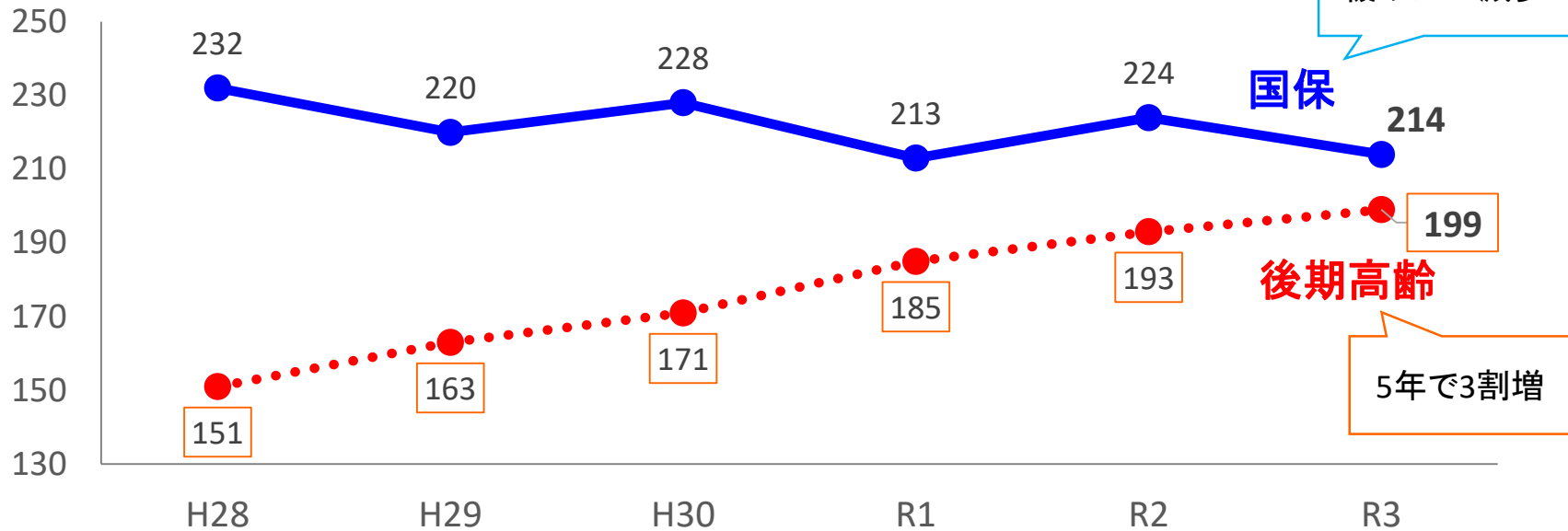


# (3) 糖尿病性腎症重症化予防の取組み (H25～開始)

R4実績(ハイリスクアプローチ)

背景

## 人工透析レセプト状況



大和市 人工透析導入者数 (国保／後期高齢者医療制度)

- ・ 市全体の人工透析者は年々微増。
- ・ 人工透析導入者数の内訳を見ると、**国保は減少傾向**の一方、**後期高齢の導入者数は増加傾向** ⇒ 人工透析導入平均年齢が上がってきていることも要因のひとつ。

▶ 医療費適正化に向け、保険区分にとられない腎症対策が必要

## 目的

- ① 市健診で高血糖かつ腎機能低下に該当する市民（国保＋後期高齢）に対し、**栄養相談**を行い、**重症化を防ぐ**。
- ② **人工透析の新規導入者を減らし**、**社会保障費の削減を目指す**。

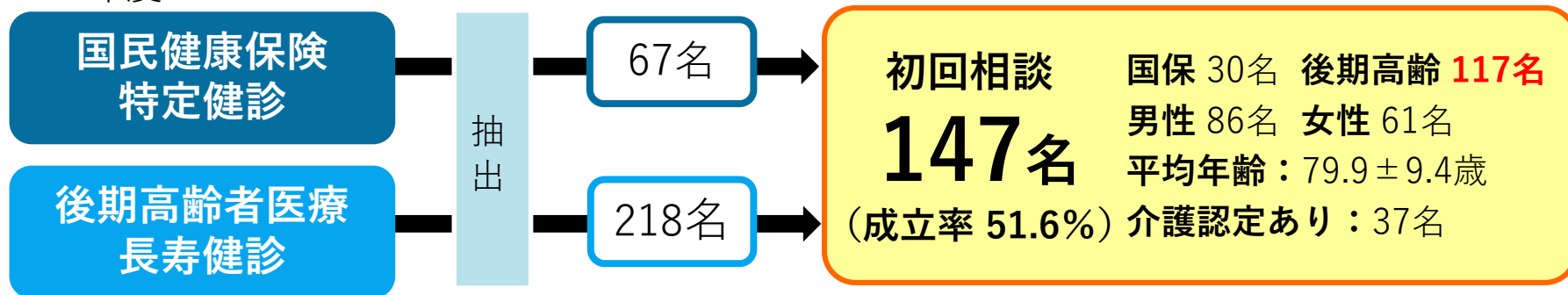
## 方法

管理栄養士による訪問または電話による栄養相談を実施（6か月3回程度）  
※感染症対策を講じて実施

## R4対象者

抽出条件：**高血糖**（今回～**HbA1c7.0%以上**）  
かつ **腎機能低下**（**eGFR45未満** または **尿蛋白＋以上**）

R3年度



## 初回評価時の課題と支援内容

(n = 147名) ※重複あり

	栄養診断(P)	要因(E)	支援内容
摂取 エネルギー量・ 食事バランス	<b>エネルギー摂取過剰</b>	主食・主菜過多、果物、夜食、飲酒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーコントロール</li> <li>・食事バランスの是正</li> <li>・脂質適正摂取指導 (食品の選び方)</li> <li>・タンパク質適正摂取指導</li> </ul>
	エネルギー摂取不足	欠食、主食や主菜なし、朝の食欲不振	
	糖質摂取過剰	麺類、清涼飲料水、果物	
	タンパク質摂取不足・ 過剰	主菜なし／主菜 1食2品	
嗜好品 ・ 栄養素の 過不足	<b>間食過多</b>	間食習慣、1日複数回食べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間食の頻度・選び方指導</li> <li>・適正飲酒指導</li> <li>・減塩方法指導</li> <li>・野菜適正量・調理法指導</li> <li>・水分調整方法指導</li> </ul>
	飲酒過多	毎日飲酒、生活習慣の変化(コロナの影響か)	
	塩分摂取過剰	加工食品、漬物、汁物、麺類の摂取習慣	
	食物繊維摂取不足	野菜類摂取不足	
	水分摂取不足	口渇感がなければ飲水なし	
生活	欠食・不規則な 食習慣	1日2食、頻回食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の地域資源(サロン・施設) の活用を案内</li> <li>・実施可能な運動・活動の提案</li> <li>・食欲のないときの食べ方指導</li> </ul>
	<b>活動量不足</b>	日中座位傾向、運動器の疼痛、転倒の恐怖心 <b>外出自粛、ジム退会、通いの場休止</b>	
服薬・病識	服薬コンプライアンス不良	服薬自己中断、服薬忘れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の指示内容確認</li> <li>・服薬管理の助言</li> <li>・受診勧奨</li> <li>・病態／検診結果の説明</li> </ul>
	病識不足	無関心、数値認識なし	
	その他	<b>歯周病、歯科未治療</b> 、認知機能、ストレス、喫煙	
特になし	血糖管理・腎機能 良好・体重維持	規則正しい食事、食事療法の順守、 定期的な運動習慣、家族のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状維持、見守り</li> </ul>

## 結果1

# 血糖や腎機能は約8割以上が維持・改善できた

※介入者のうち、R4健診受診者の評価

### <血糖>

HbA1c

86.0%



※介入者147名中、R4健診受診者121名のHbA1c評価 HbA1c $\pm$ 0.5%未満:維持

### <腎機能>

eGFR  
区分

87.2%



※介入時eGFR45未満で、R4健診受診者47名の評価 腎機能ステージ分類を評価

尿蛋白

84.2%

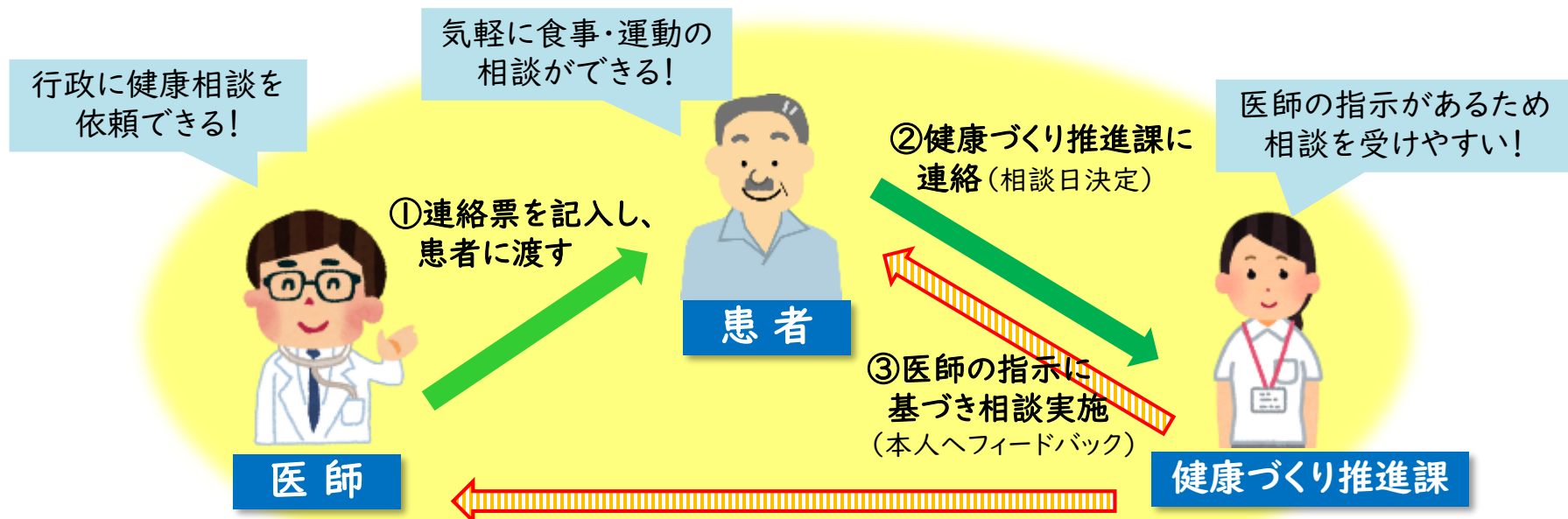


※介入時尿蛋白+以上で、R4健診受診者95名の評価

# 健康相談連絡票について(かかりつけ医との連携)

**目的** 医療連携のため、かかりつけ医と保健師・管理栄養士間の情報共有ツール(H29~)

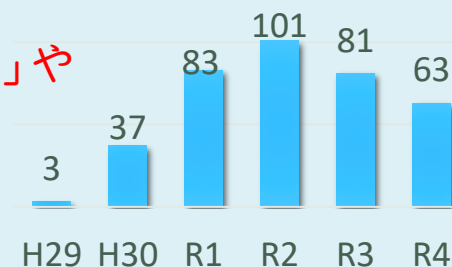
**運用方法** 運用開始にあたり、大和市医師会理事会の承認を得て、各医療機関(内科を標榜)へ送付



※医師会理事会で  
医師へ利用を再周知(R2.10)

※途中経過  
(R4.12時点昨年並み)

相談件数の推移(件)



- 相談件数の増加(初年度3件⇒平均80件/年)
- 依頼内容の変化 生活習慣病に加え、「フレイル予防」「低栄養予防」や「メタボ」の依頼も ⇒ 医療から介護予防への気づきは重要!
- 市内全域での定着に向けては課題あり

# 糖尿病性腎症重症化予防のまとめ

- 対象者基準を引き上げ、**優先度の高い者へ支援し、8割以上の血糖や腎機能を維持・改善。**
- 栄養相談が必要な高齢者が増加する中、限られた人員で効率の良い支援が必要。
- 「健康相談連絡票」を通して、医療機関から定期的に栄養指導の依頼あり。**医療機関と連携した**取組みの定着化を図りたい。
- 医療費への影響については継続検討。